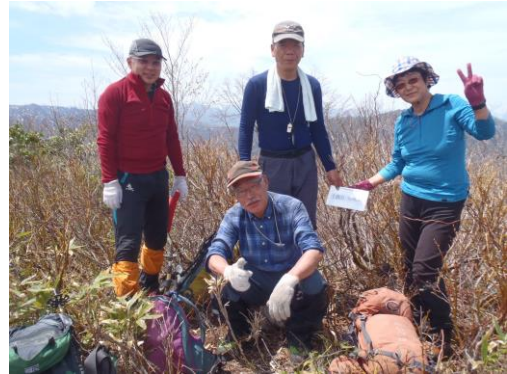


土倉山

齋藤 美和子

- 山行年月日:平成 30 年 5 月 6 日
- メンバー:齋藤美和子 大竹尚子
佐藤利伊 窪田道男
佐藤敏二

ゴールデンウイークの山。会越国境は嵐。急遽天候の良いところに変更。昨日は、荒海山に登り、今日はその西に見えた土倉山である。土倉山は、知る人ぞ知る会津の名峰である。会津百名山には載らなかったが、郡山山岳会の成田さんの大好きだった山である。そして尚子さん曰く、小沼さん百名山の山。大変だけど、頂上からの景色が絶景。2年前の晩秋に連れて行っていただいたが、なるほどと思った山であった。追いつき沢の出会いまで車を入れて、テント泊。尾根がしっかりしているが、急登。迷わないように赤布を打っていく。急登を過ぎれば、両線歩き。左側は、岩場が続き、紫つつじの真っ盛り。右はブナの新緑で輝いていた。1350mにきて初めて山頂が顔を出す。近くに見える。この前来た時もそうだった。もう少しと思ったがここからが核心部。シャクナゲやぶでふみ跡はかすかに



なる。岩場も出てくる。全身を使って登っていく。苦勞すればご褒美はおいしい。藪と格闘し山頂に登れば、360度の景色が待っていた。昨日登った荒海山は正面に鎮座、振り返ると三岩や会津駒が近くに見えた。満足満足。日差しが強くこんなところで休めないと少し下って日陰で休憩。そして岩場を過ぎたところで尾根を間違った。狐に騙されたような感じであった。下山でやぶを避けて右から巻こうとして途中の尾根に入った。すぐに気が付いたが行く尾根がわからなくなった。土倉の山頂方向に向かっていたりして。恐ろしい。2回目に下った時に大荒山が横に見え、この尾根が確実に間違ったことがわかり戻る。後は間違えずに下山できた。この連休は2日連続の急登の山であった。疲れたけど、早春の山の素晴らしさを全身で味わうことができた。一言でいえば土倉山は紫つつじの山であった。皆さんありがとうございました。